

日本人はなぜ
日本のことを知らないのか

竹田恒泰
Takeda Tsuneyasu



PHP新書

日本人はなぜ日本のことを知らないのか 目次

この本を手にとった方へ

本書の読み方

第 I 部

日本はいつできたのか

第一章

日本の教科書は世界の非常識

9

第二章

憲法の根拠は『日本書紀』にあり

41

第三章

神武天皇の否定は初歩的な誤り

65

第四章

戦争なく成立した奇跡の統一国家

93

第五章

中国から守り抜いた独立と自尊

121

第六章

国を知ること、国を愛すること

149

子供に読ませたい建国の教科書

- ① 先土器時代以前 169
- ② 新石器時代と日本の縄文時代 177
- ③ 戦乱の弥生時代 192
- ④ 古代王朝の誕生と古墳時代の幕開け 203
- ⑤ 独立国への苦難の道 214
- ⑥ 律令国家の成立 224

あとがき

主要参考文献一覧

第 I 部

日本はいつできたのか

日本の教科書は世界の非常識

第一→章

学校教育で建国の歴史を教えない国は、世界中で、日本だけではなかるうか。我が国は現存する世界最古の国家である。日本人なら素直に喜び、誇りに思えるこの重大な事実を、なぜ日本人は知らないのか。

日本が最古の国であることを知ったとき、私は心から感動し「日本はすごい国なんだ」と思った。これほど日本人に誇りを持たせる重要な歴史を教えないとは、不自然極まりない。日本国民の意識から「建国」が完全に抜け落ちてしまった結果、現代日本人は建国精神を忘れ、民族の誇りを忘れ、日本人の気質を失ってしまったように思える。

そしてその結果、現在の日本は、建国記念の日に建国を祝う国民がほとんどいないという、世界的に見て、極めて異常な状況にある。日本国が存在することのありがたさを、日本人は実感していない。これは国家・民族の危機であろう。戦後教育の誤りは、国を滅亡させる力をも発揮しうるのである。

現代日本人があまりにも国史に無知であることは、現代日本社会の歪みひずみを如実に表しているように思えてならない。我が国は先の大戦の終結来、誇りを持つことを禁止されてしまったように見える。民族に誇りを持ってなくなったら、その民族は滅びるに違いない。

●●●日本は現存する唯一の古代国家●●●

世界には一九〇を超える国が現存するが、そのなかで世界最古の国家が日本であることはあまり知られていない。このことは、戦前までは誰もが共有していたことだが、戦後は国民の記憶のなかから抹消されてしまった。

老舗しにせが「創業何年」と銘打つように、古い時代から継続してきたことは、大きな誇りである。私が世話になった小学校も、幕末の慶応年間に創立された長い歴史を持ち、子供時分からそのことを誇りに思っていたことを今でもよく覚えている。長い歴史のなかで、価値のないものは淘汰たうたされ、失われてきたが、ほんとうに価値のあるものだけが守られ、今に継承されてきた。伝統には、必ず相当の意味や価値があるものなのである。

世界の歴史は王朝交代の歴史だった。世界史の年表を眺めれば、国家は数十年や百年程度で成立と滅亡を繰り返してきたことがよく分かる。人類史上、四百年以上国を守ったのは、数えるほどしか例がない。

ところが、そのなかで日本だけが、古代から続く王朝を守り、今も存在しているのである。そして、我が国の建国よりも前にあった王朝は、いずれも滅び、今は存在しない。

では日本の建国はいつなのか。正式な歴史書である正史『日本書紀』によれば、初代神武天皇の橿原宮かしはらのみや（奈良県橿原市）での即位が我が国の建国で、これは紀元前六六〇年、すなわち今から約二千七百年前に相当する。もつとも、これには考古学界からは根強い批判がある。『日本書紀』には神話的要素が強く、特に建国に関する記述には信憑性しんぴやうが乏しく、認められないという。

しかし、三世紀前期に奈良県の三輪山みわやまの麓ふもとにある纏向遺跡まきむくに前方後円墳が造られたことがヤマト王権の成立を示していて、そのヤマト王権がやがて日本列島の大部分を統治する大和朝廷となり、以来、現在に至るまで王朝の交代がないことは、考古学界でも共通した認識になっている。

このことから、日本の建国は、考古学の立場から考察し、最も短く見積もっても千八百年前となり、いずれにしても我が国は現存する最古の国家であることに違いはない。また、考古学者たちが主張する、大和朝廷の基盤となる王権が畿内で成立したことは、『日本書紀』の記述とも一致する。

ただし、日本列島の大部分を統治する国が瞬間的に立ち上がるとは考えられない。大和朝廷につながる小さな国家がそれよりも前に成立していたはずであるから、弥生時代の時間の

流れが緩やかだったことを考慮すれば、千八百年に数百年上乘せした歴史がある、と考えるのが自然であろう。ならば、我が国の建国はおよそ二千年もしくは、それ以上前と表現しても大きく外れることはない。

日本の国の歴史の長さは、他国と比較すると理解しやすい。現存する国家のなかで日本に次ぎ、二番目に長い歴史を持つのがデンマークである。十世紀前半にヴァイキングたちを統合した初代国王ゴームが建国したと伝えられ、現在の国王はゴーム王の子孫とされる。だが、それでもその歴史は千数十年と、日本の半分程度に過ぎない。次いで三番目が英国で、初代国王のウィリアム一世がフランスから海を渡ってきてブリテン島を征服したのが一〇六六年、およそ九百数十年前のことである。現在のエリザベス女王はその子孫とされる。

ところで、国連の常任理事国は英国を除いていずれも歴史が浅い。アメリカが独立戦争を経て英国から独立したのが一七七六年、フランスはフランス革命が始まった一七八九年、中国は毛沢東が天安門広場で成立を宣言した一九四九年、ロシアはソヴェエト連邦が崩壊して独立を宣言した一九九一年が建国の年である。日本国が二千年以上の間、王朝を守ってきたことは、人類史上の奇跡といっても過言ではない。

●●● 国の成り立ちを知らない子供たち ●●●

私は慶應義塾大学の大学院で憲法の授業をしているが、学生たちに「日本はいつどのよう
にできたのか」と問うても、答えられる生徒はほとんどいない。大学院でもその状態である
から、まして、全国の大学生や高校生は日本の国の成り立ちを知らないと考えてよい。この
状況は、国家の存亡にかかわる極めて重大な危機と考えるべきだろう。

この事態を外国に置き換えてみると、日本の異常さが分かる。たとえば、アメリカの教育
を受けたにもかかわらず、アメリカの独立戦争を知らず、初代大統領のジョージ・ワシント
ンを知らないアメリカ人などいるだろうか。もしそのようなアメリカ人がいても、もはやア
メリカ人とは呼べないのではないか。アメリカ人なら、誰しも建国の経緯を詳らかに語るこ
とができるはずだ。同じように、フランス革命について語るできないフランス人や、
毛沢東を知らない中国人などがいたら「もぐり」であろう。

国民が建国の歴史を知っていることは、新しい国に限るものではない。日本に次いで古い
歴史を持つデンマークや英国でも、国民は建国の歴史を雄弁に語ることができる。初代国王
ゴームを知らないデンマーク人や、初代国王ウィリアム一世を知らない英国人などもいるは

ずがない。

このように国民が国家・民族の歴史を熟知しているのは、国が力を入れて教育しているからにほかならない。どの国も、自国の歴史は建国からていねいに子供たちに教え込んでいく。ゆえに、そのような国の子供は、自国の歴史を知り、ときには外国人に説明することができるのである。

同じように、日本でも義務教育の現場では歴史を教えている。中学校の社会科には歴史の科目があり、日本の子供たちは確実に日本の歴史を勉強しているはずである。

ところがなぜ、日本の若者は建国の経緯を知らないのか。その答えは、中学で使われている歴史の教科書の中身にある。なんと、中学の歴史の教科書には、どこにも我が国の建国の経緯が書かれていない。それどころか、初代の神武天皇も紹介されていないばかりか、天皇とは何かについても、ひと言も説明されていない。これでは、子供たちが、日本はいつどのようにできたか、日本はどのような国なのか、分かるはずがない。